

Arcserve Unified Data Protection

遠隔地データ転送の設定と運用手順

1. はじめに	1
2. バックアップ対象ノードの追加	2
2.1 バックアップ対象サーバの追加	2
<参考> 「ファイルからインポート」を利用してノードを追加する方法	5
3. バックアップおよび遠隔地へのデータ転送プランの作成と手動実行	8
3.1 バックアップおよびレプリケートのプラン作成	9
3.2 プランの手動実行	16
4. 災害対策サイトからの復旧手順	19
4.1 RPS ジャンプスタート機能を利用する手順	20
4.2 レプリケートタスクを利用する手順	31
5. 製品情報と無償トレーニング情報	33
5.1 製品情報および FAQ はこちら	33
5.2 トレーニング情報	33

注意：この資料は 2023 年 7 月 1 日現在の製品をもとに記述しています。

すべての製品名、サービス名、会社名およびロゴは、各社の商標、または登録商標です。

本ガイドは情報提供のみを目的としています。Arcserve は本情報の正確性または完全性に対して一切の責任を負いません。Arcserve は、該当する法律が許す範囲で、いかなる種類の保証（商品性、特定の目的に対する適合性または非侵害に関する黙示の保証を含みます（ただし、これに限定されません））も伴わずに、このドキュメントを「現状有姿で」提供します。Arcserve は、利益損失、投資損失、事業中断、営業権の喪失、またはデータの喪失など（ただし、これに限定されません）、このドキュメントに関連する直接損害または間接損害については、Arcserve がその損害の可能性の通知を明示的に受けていた場合であっても一切の責任を負いません。

Copyright © 2023 Arcserve , LLC and / or one of its subsidiaries. All rights reserved.

1. はじめに

Arcserve® Unified Data Protection (以降 UDP と表記) は、「簡単」かつ「手頃」なディスク ベースのシステム保護ソリューションです。単体サーバで構成される小規模なコンピューティング環境にも、複数サーバで構成される大規模なコンピューティング環境のニーズにも必要とされるバックアップ・リカバリ機能を提供します。導入から運用を開始するまで、ほんのわずかな時間と設定で済むだけでなく、一度運用を始めるとほとんど専門知識や手間をかける必要がないため、バックアップ運用管理者の手薄な地方拠点や小規模な部門でも安心してお使いいただくことができます。UDP の詳細については以下を参照ください。

「Arcserve Unified Data Protection 9.x 製品のご紹介」

<https://www.arcserve.com/sites/default/files/2023-01/udp-9x-presentation.pdf>

本ガイドでは、Arcserve UDP を使った遠隔地へのバックアップデータ転送について解説します。

Windows サーバを、Arcserve UDP エージェント (以下 UDP エージェント) で、復旧ポイントサーバ (以下 RPS) にバックアップします。大規模環境などでの運用を想定し、災害対策サイトの RPS にバックアップデータを転送後、さらに、災害対策サイトのデータを使って本番サイトを復旧するための手順を説明します。



Arcserve UDP Agent for Windows の導入手順については、以下を参照ください。

「Arcserve Unified Data Protection 9.x Agent for Windows 環境構築ガイド インストール～ベアメタル復旧編」

<https://www.arcserve.com/sites/default/files/2023-01/udp-9x-win-agent-bmr-guide.pdf>

UDP コンソールと復旧ポイントサーバの構築手順については、以下を参照ください。

「Arcserve Unified Data Protection 9.x 環境構築ガイド - コンソール + 復旧ポイント サーバ - (フル コンポーネント) インストール編」

<https://www.arcserve.com/sites/default/files/2023-01/udp-9x-console-install-guide.pdf>

2. バックアップ対象ノードの追加

本章では、Arcserve UDP コンソール (以下 UDP コンソール) から、バックアップ対象ノードを追加する手順を説明します。

2.1 バックアップ対象ノードの追加

(1) [ノードの追加]

UDP コンソール画面にログインし、[リソース]タブをクリックします。左ペインにて[ノード] - [すべてのノード]が選択されていることを確認し、[ノードの追加]をクリックします。

※[ノードの追加]で複数サーバを一括で登録したい場合は、[「<参考> 「ファイルからインポート」を利用してノードを追加する方法」](#)を参照ください。



(2) [Arcserve UDP コンソールへのノード追加]

[ノードの追加]から[Windows ノードの追加]を選択し、バックアップ対象ノードの情報を入力します。

下図の枠内に、バックアップ対象ノード名 (本ガイドでは“arcserve”を指定) または IP アドレス、対象ノードの管理者権限のあるユーザ名、パスワードを入力し、[リストに追加]をクリックします。

Arcserve UDP コンソール へのノードの追加

ノードの追加 Windows ノードの追加

ノード名/IP アドレス arcserve

ユーザ名 administrator

パスワード

説明の追加

☐ Arcserve Backup ジョブに関する UDP ダッシュボード情報の収集

認証の種類 Windows 認証

ユーザ名 administrator

パスワード

ポート 6054

リストに追加

右側に登録されたノードが表示されるので確認して、[保存]をクリックします。

※対象を複数登録する場合には、手順(2)を繰り返します

The screenshot shows the Arcserve Backup configuration interface. On the left, there are input fields for node registration: 'ノード名/IP アドレス' (Node Name/IP Address), 'ユーザ名' (Username) set to 'administrator', 'パスワード' (Password), '説明の追加' (Add Description), a checkbox for 'Arcserve Backup ジョブに関する UDP ダッシュボード情報の収集' (Collect UDP dashboard information for Arcserve Backup jobs), '認証の種類' (Authentication Type) set to 'Windows 認証' (Windows Authentication), and another set of fields for 'ユーザ名' (Username) set to 'administrator', 'パスワード' (Password), and 'ポート' (Port) set to '6054'. A 'リストに追加' (Add to List) button is at the bottom right of this section. On the right, a table lists the registered nodes:

ノード名	VM 名	ハイパーバイザ
arcserve		

Below the table is a '削除' (Delete) button. At the bottom of the window are 'ヘルプ' (Help), '保存' (Save), and 'キャンセル' (Cancel) buttons.

(3) 追加したノードの確認

追加したノードが[すべてのノード]一覧に表示されていることを確認します。

The screenshot shows the 'Nodes' page in the Arcserve Backup interface. The top navigation bar includes 'ダッシュボード' (Dashboard), 'リソース' (Resources), 'ジョブ' (Jobs), 'レポート' (Reports), 'ログ' (Logs), '設定' (Settings), and 'ハイ アベイラビリティ' (High Availability). The main heading is 'ノード: すべてのノード'. Below this, there's a table with columns 'ステータス' (Status), 'ノード名' (Node Name), and 'VM 名' (VM Name). The 'arcserve' node is listed with a yellow status icon. The left sidebar contains a tree view with categories: 'ノード' (Nodes), 'プラン' (Plans), 'デスティネーション' (Destinations), and 'インフラストラクチャ' (Infrastructure).

ステータス	ノード名	VM 名
!	arcserve	

<参考> 「ファイルからインポート」を利用してノードを追加する方法

複数サーバを一括で登録したい場合は、「ファイルからインポート」という方法で複数サーバを一括登録できます。その機能を使うには、あらかじめ「<ノード名>, <ユーザ名>, <パスワード>」の形式で CSV または TXT ファイルを用意します。

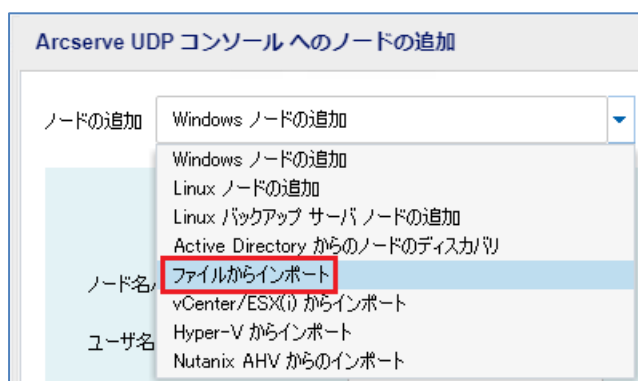
(1) [ノードの追加]

UDP コンソール画面にログインし、[リソース]タブをクリックします。左ペインにて[ノード] - [すべてのノード]が選択されていることを確認し、[ノードの追加]をクリックします。



(2) [ファイルからインポート]

[ノードの追加]をクリックし、プルダウンの選択肢から[ファイルからのインポート]を選択します。



(3) [アップロード]

[CSV または TXT 形式ファイルの選択]で、事前に準備したファイルを指定して [アップロード]をクリックします。

Arcserve UDP コンソール へのノード追加

ノードの追加: ファイルからインポート

CSV または TXT 形式ファイルの選択

C:\Users\host1\hosts.txt

参照...

アップロード

ノード名	VM 名	ハイパーバイザ
ノードをリストに追加していません。		

ヘルプ 保存 キャンセル

(4) [リストに追加]

バックアップ対象のノードにチェックを入れ、[リストに追加]をクリックします。

Arcserve UDP コンソール へのノード追加

ノードの追加: ファイルからインポート

ユーザ名: Administrator パスワード: ●●●●●● 適用

ノード名	ユーザ名	検証済み
host1	administrator	✓
host2	administrator	✓
host3	administrator	✓
host4	administrator	✓
host5	administrator	✓
host6	administrator	✓
host7	administrator	✓
host8	administrator	✓
host9	administrator	✓
host10	administrator	✓

参照 リストに追加

ノード名	VM 名	ハイパーバイザ
ノードをリストに追加していません。		

ヘルプ 保存 キャンセル

(5) 追加されたノードの保存

バックアップ対象のノードが右側に登録されたことを確認して、[保存]をクリックします。

Arcserve UDP コンソール へのノード追加

ノードの追加 ファイルからインポート

ユーザー名 Administrator パスワード ●●●●●● 適用

ノード名	ユーザー名	検証済み
<input type="checkbox"/> host1	administrator	✓
<input type="checkbox"/> host2	administrator	✓
<input type="checkbox"/> host3	administrator	✓
<input type="checkbox"/> host4	administrator	✓
<input type="checkbox"/> host5	administrator	✓
<input type="checkbox"/> host6	administrator	✓
<input type="checkbox"/> host7	administrator	✓
<input type="checkbox"/> host8	administrator	✓
<input type="checkbox"/> host9	administrator	✓
<input type="checkbox"/> host10	administrator	✓

参照 リストに追加

ノード名	VM 名	ハイパーバイザ
<input type="checkbox"/> host1		
<input type="checkbox"/> host2		
<input type="checkbox"/> host3		
<input type="checkbox"/> host4		
<input type="checkbox"/> host5		
<input type="checkbox"/> host6		
<input type="checkbox"/> host7		
<input type="checkbox"/> host8		
<input type="checkbox"/> host9		
<input type="checkbox"/> host10		

ヘルプ 保存 キャンセル

3. バックアップおよび遠隔地へのデータ転送プランの作成と手動実行

本章では UDP コンソールを使い、2 章の手順で追加したノードをバックアップし、そのバックアップ データを遠隔地に転送するプランの作成手順を紹介します。

<参考> プランとは

プランとは、1 つまたは複数のデータ保護を行う処理（以下、“タスク”）を集約し、定義したものです。それぞれのタスクで実行スケジュールや通知設定などを設定することができます。

また、1 つのプランに複数のタスクを設定することによってタスクの関連性を定義することもできます。

今回の手順では、1 つのプランに対し、以下の2 つのタスクを使用します。

タスク 1: “バックアップ: エージェントベース Windows”

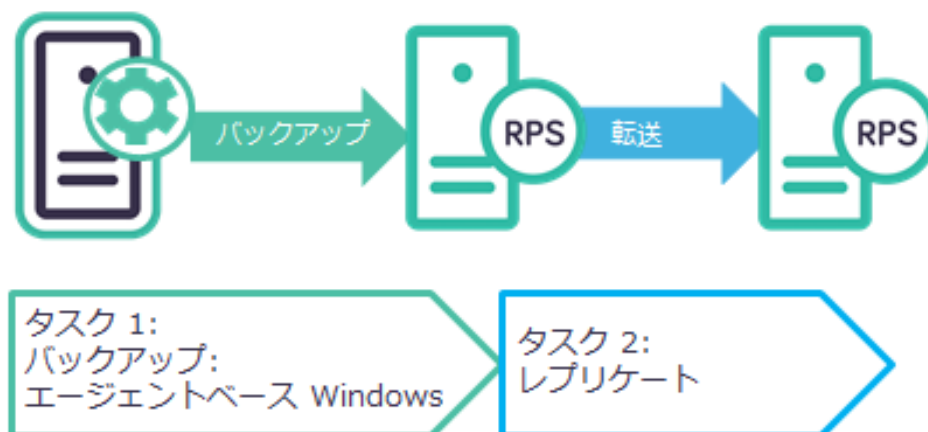
⇒ Windows サーバをエージェント経由でバックアップするタスク

タスク 2: “レプリケート”

⇒ バックアップデータを遠隔転送するタスク

>バックアップデータを遠隔地に転送するプラン全体の処理の流れ

タスク 1 のバックアップ タスクが完了してから、タスク 2 のレプリケート タスクが実行されます。



※ プランを作成する前に、転送元および転送先の復旧ポイントサーバ (RPS) をそれぞれ UDP コンソールに登録してください。RPS の登録手順については、以下を参照ください。

「Arcserve Unified Data Protection 9.x 環境構築ガイド - コンソール + 復旧ポイント サーバ - (フル コンポーネント) インストール編」

<https://www.arcserve.com/sites/default/files/2023-01/udp-9x-console-install-guide.pdf>

3.1 バックアップおよびレプリケートのプラン作成

(1) [プランの追加]

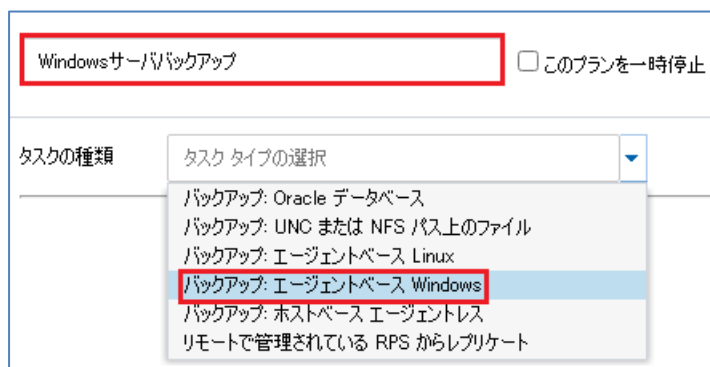
バックアップを行うプランを作成し、追加したノードに割り当てます。左ペインから[プラン] - [すべてのプラン]を選択し、[プランの追加]をクリックします。



(2) プラン名の入力および、[タスクの種類]の選択

[プランの追加]画面で任意のプラン名を入力します。(本ガイドではプラン名を“Windows サーババックアップ”と指定)

続いて、[タスクの種類]プルダウンから、[バックアップ: エージェントベース Windows]を選択します。



(3) [ソース]の選択

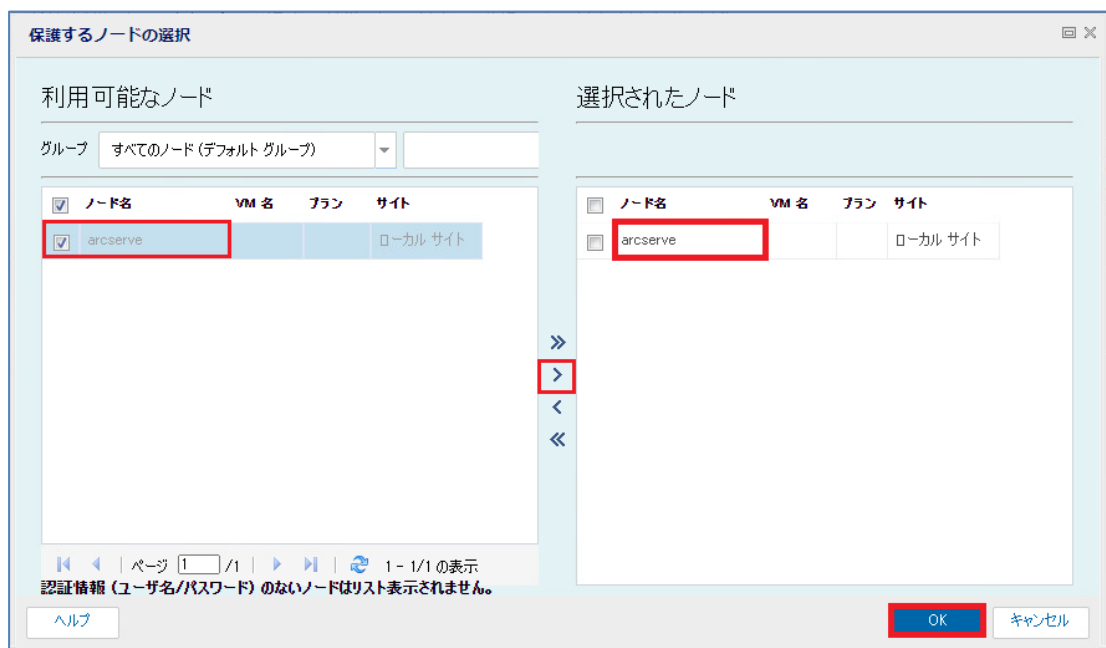
[ソース]タブにて、既に UDP コンソールにノード登録したものを指定するため、[+追加]ボタンをクリックし、[Arcserve UDP で保護するノードの選択]をクリックします。



[保護するノードの選択]画面が表示されます。利用可能なノードが一覧表示されますので、ソースとして選択したいノードにチェックを入れ、右矢印ボタン(>)をクリックしてください。

(本ガイドでは 1.1 で追加したバックアップ対象ノード"arcserve"を指定)

[選択されたノード]にバックアップ対象ノードが選択されたことを確認し、[OK]をクリックします



ノードの選択画面に戻ります。選択したノードが一覧に表示されていることを確認します。

(4) [デスティネーション]の設定

[デスティネーション]タブをクリックし、バックアップデータの格納先を設定します。[デスティネーションの種類]にて、[UDP 復旧ポイントサーバ]を選択します。(本ガイドでは“UDP”を指定)

[復旧ポイント サーバ]でバックアップ先の RPS を選択し、[データ ストア]にて追加したデータストアをそれぞれプルダウンから選択してください。

[バックアップ トラフィックに選択したネットワークを使用]にチェックを入れると、業務 LAN とは別のバックアップ専用 LAN を使ってバックアップ ジョブを実行することが出来ます。

また、画面下部の[選択したバックアップ ネットワークに接続できない場合でも、ジョブを開始します]を有効にすることで、バックアップ用 LAN での接続が失敗した時、業務用 LAN を使ってバックアップジョブを完了できます。※レプリケート、リストアジョブも同様です。

(5) [スケジュール]の設定

[スケジュール]タブをクリックし、スケジュール設定をします。デフォルトで[日次増分バックアップ]が設定されており、毎日午後 10 時からの増分バックアップがスケジュールされています。必要に応じてスケジュールの変更や追加をしてください。ここではデフォルトのままを進めます。

ソース デスティネーション **スケジュール** 拡張

追加 削除

タイプ	説明	日	月	火	水	木	金	土	時刻
<input checked="" type="checkbox"/>	日次増分バックアップ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	22:00

最初のバックアップ (フル バックアップ) 2023/05/24 11 : 52

復旧ポイントの保存

日次バックアップ 7

週次バックアップ

月次バックアップ

カスタム/手動バックアップ 31

カタログ

以下の実行後にファイル システム カタログを生成 (検索速度向上のため):

☐ 日次バックアップ

☐ 週次バックアップ

☐ 月次バックアップ

☐ カスタム/手動バックアップ

詳細リストアに対する Exchange カatalogの生成は不要になりました。Arcserve UDP Exchange Granular Restore ツールの詳細については、[Arcserve ナレッジ センター](#)を参照してください。

(参考) 日次増分バックアップをクリックした際に表示されるスケジュール編集画面です。バックアップの種類、開始時刻、曜日指定、保持バックアップ数が設定できます。(保持バックアップ数は、日次、月次、週次、または曜日指定のバックアップスケジュールでそれぞれ異なります)

バックアップ スケジュールの編集

毎日

バックアップの種類 増分

開始時刻 22:00

☒ 日曜日 ☒ 月曜日 ☒ 火曜日
☒ 水曜日 ☒ 木曜日 ☒ 金曜日

保持するバックアップ数 7

(6) [拡張]の設定

[拡張]タブをクリックします。ジョブ前後のコマンド実行設定やメール通知の設定等の詳細設定が行えますが、本ガイドでは設定をせずに進めます。

The screenshot shows the '拡張' (Extension) tab selected in a configuration window. The tabs at the top are 'ソース' (Source), 'デスティネーション' (Destination), 'スケジュール' (Schedule), and '拡張' (Extension). The '拡張' tab contains the following settings:

- バックアップのスナップショットの種類** (Snapshot Type):
 - ☒ ソフトウェア スナップショットのみを使用 (Use only software snapshots)
 - ☐ 可能な限りハードウェア スナップショットを使用 (Use hardware snapshots where possible)
- Point-in-time**:
 - ☐ SQL Server の Point-in-time 復旧を有効にする (Enable SQL Server Point-in-time recovery)
- ログの切り捨て** (Log Truncation):
 - ☐ SQL Server (Frequency: 毎週 - Weekly)
- バックアップ開始前にコマンドを実行** (Run command before backup):
 - ☐ [Command field]
 - ☐ 終了コード: 0 (Options: ☒ ジョブを続行 / ☐ ジョブを中止)
- スナップショット取得後にコマンドを実行** (Run command after snapshot acquisition):
 - ☐ [Command field]
 - ☐ スナップショットが失敗した場合でもコマンドを実行 (Run command even if snapshot fails)
- バックアップ完了後にコマンドを実行** (Run command after backup completion):
 - ☐ [Command field]
 - ☐ ジョブが失敗した場合でもコマンドを実行 (Run command even if job fails)
- コマンド用ユーザー名** (Command user name): [Field]
- コマンド用パスワード** (Command password): [Field]

(7) [タスクの追加]

[タスクの追加]タブをクリックし、レプリケート タスク を追加します。

The screenshot shows the 'タスクの追加' (Add Task) tab selected. The left sidebar has 'タスクの追加' highlighted with a red box. The main area shows the configuration for a new task:

- プランの追加** (Add Plan):
 - Plan Name: Windowsサーババックアップ (Windows Server Backup)
 - ☐ このプランを一時停止 (Suspend this plan temporarily)
 - [保存] (Save) button
- タスクの種類** (Task Type):
 - Selected: バックアップ: エージェントベース Windows (Backup: Agent-based Windows)
- ソース** (Source): [Field]
- デスティネーション** (Destination): [Field]
- スケジュール** (Schedule): [Field]
- 拡張** (Extension) tab is selected, showing the same settings as in step 6.

(8) [タスクの種類]の選択

[タスク 2]の[タスクの種類]から[レプリケート]を選択します。

プランの追加

Windowsサーババックアップ ☐ このプランを一時停止

タスク1: バックアップ: エージェントベース Windows

タスク2

タスクの種類

タスク タイプの選択

- アシュアードリカバリ テスト
- テープへのコピー
- ファイル アーカイブ
- ファイル コピー
- リモートで管理されている RPS へのレプリケート
- レプリケート**
- 仮想スタンバイ
- 復旧ポイントのコピー

タスクの追加

製品のインストール

(9) [デスティネーション]の設定

[デスティネーション]タブをクリックし、バックアップデータの転送先の復旧ポイントサーバを設定します。[復旧ポイント サーバ]で転送先の復旧ポイントサーバを選択し、[データ ストア]にてデータストアをそれぞれプルダウンから選択してください。また必要に応じて[レプリケート トラフィックに選択したネットワーク]を設定します。

タスクの種類

レプリケート

ソース デスティネーション スケジュール 拡張

復旧ポイント サーバ

UDP2

データ ストア

RemoteDS

レプリケーション ジョブ失敗時:

再試行開始

10 分後 (1 ~ 60)

再試行開始

3 回 (1~99)

☒ レプリケート トラフィックに選択したネットワークを使用

192.168.0.0/24

☐ 選択したデスティネーション ネットワークに接続できない場合でも、ジョブを開始する

(10)[スケジュール]の設定

[スケジュール]タブをクリックします。デフォルトではスケジュールは設定されておらず、バックアップタスクが完了するとすぐにレプリケートタスクが実行されます。もしレプリケートタスクの実行を時間指定で行う場合は、スケジュールを追加してください。スケジュールの設定手順はバックアップタスクと同じです。

ここではデフォルトのままに進めます。

タイプ	説明	日	月	火	水	木	金	土	時刻
復旧ポイントの保存	日次バックアップ								7
	週次バックアップ								
	月次バックアップ								
	カスタム/手動バックアップ								31

(11)プラン設定の保存

[拡張]タブでは、メール通知の設定が行えますが本ガイドでは設定をせずに進めます。

[保存]ボタンをクリックし、プランを保存します。以上でプラン作成は終了です。

Windowsサーババックアップ ☐ このプランを一時停止 **保存** キャンセル ヘルプ

ソース	デスティネーション	スケジュール	拡張

電子メール アラートの有効化 ☐ [電子メールの設定](#)

ジョブ アラート

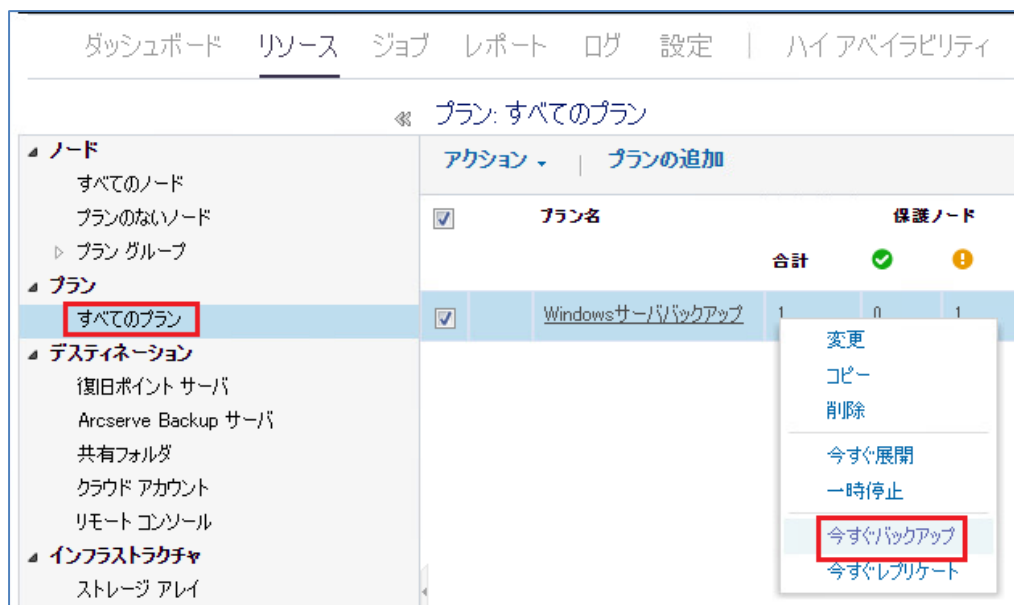
- ☐ ジョブを実行できない場合
- ☐ レプリケーション、失敗/クラッシュ
- ☐ レプリケーション、成功
- ☐ マージ、ジョブが停止、スキップ、失敗、またはクラッシュした場合
- ☐ マージ、ジョブが成功した場合

3.2 プランの手動実行

(1) バックアップの手動実行

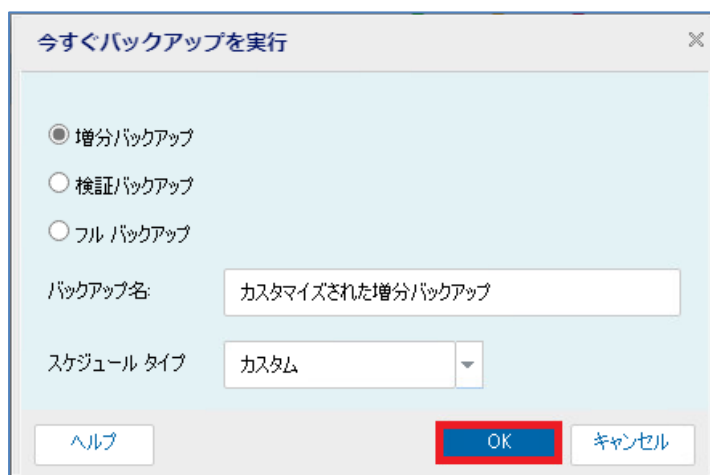
作成したプランを手動で実行するためには、バックアップを実行します。追加されたプランを選択して、対象ノードを右クリックして出てくるメニューから、[今すぐバックアップ]をクリックします。

(対象ノードを選択し、[アクション] - [今すぐバックアップ] から選択できます)



(2) [今すぐバックアップを実行]

デフォルトでは増分バックアップが選択されていますが、初めてのバックアップは自動的にフルバックアップに変換されます。[バックアップ名]を任意で入力し、[OK]をクリックします。



バックアップジョブがサブミットされ、[最新のイベント]にジョブの実行状況が表示されます。

▼ 最新のイベント

ログの表示

ノード名: arcserve

バックアップ: 2023/05/26 17:13:57

3% (2.24 GB/56.41 GB)

詳細

経過時間: 00:00:21

[詳細]ボタンをクリックすると[バックアップ ステータス モニタ]画面でより詳細な状況を見ることができます。

バックアップ ステータス モニタ - arcserve

×

バックアップ - フル

進捗状況

△

フェーズ ボリュームのバックアップ中

キャンセル

3% (5.14 GB/56.41 GB)

開始時刻

2023/05/26 17:13:57

経過時間

00:00:48

推定残り時間

00:08:01

処理中

F:

保護

暗号化なし

デデュPLICATION

有効

圧縮レベル

標準

デデュPLICATION率 (%)

6.98%

圧縮 (%)

33.71%

全体でのデータ縮小率 (%)

38.34% ?

ターゲット復旧ポイント サーバ

UDP

ターゲット データ ストア名

DataStore

スループット

△

ディスク読み取りスロットル

制限なし

ディスク読み取りスループット

6545 MB/分

ネットワーク スロットル

制限なし

ネットワーク スループット

568.3 Mbps

バックアップジョブが完了すると、レプリケートのジョブ “転送先[レプリケーションタスク(イン)]”

および、“転送元[レプリケーションタスク(アウト)]” が [最新のイベント] に表示されます。初回のレプリケートジョブではフル バックアップ相当の容量のデータが転送されます。2 回目以降のレプリケート ジョブでは増分バックアップ相当の容量データが転送されます。

▼ 最新のイベント

ログの表示

ノード名: arcserve

レプリケーション (アウト): 2023/05/26 17:47:06

15% (8.48 GB/56.43 GB)

詳細

経過時間: 00:01:09

ノード名: arcserve

レプリケーション (イン): 2023/05/26 17:47:33

15% (8.48 GB/56.43 GB)

詳細

経過時間: 00:01:09

レプリケーションタスク(イン)、またはレプリケーションタスク(アウト) の [詳細] ボタンをクリックすると[レプリケーション ステータス モニタ]の画面で、転送元/転送先のより詳細な状況を見ることができます。



(3) プランの正常終了を確認

[ステータス]の[最新のイベント]で、“バックアップ”、“レプリケーションタスク(イン)”、“レプリケーションタスク(アウト)”がそれぞれ正常終了したことを確認します。

▼ 最新のジョブ (タスク別)		
✓ バックアップ (フル)	2023/05/26 17:13:57	期間: 00:08:22
✓ レプリケーション (イン)	2023/05/26 17:47:32	期間: 00:04:54
✓ レプリケーション (アウト)	2023/05/26 17:47:04	期間: 00:04:58
▼ 最近のイベント		ログの表示
✓ レプリケーション (イン)	2023/05/26 17:47:32	
✓ バックアップ - フル	2023/05/26 17:13:57	

<参考>

他の拠点にある復旧ポイント サーバへ大容量のデータを迅速にレプリケートするために、UDP では WAN やインターネットなどのネットワークを利用しない（オフライン）レプリケートを行う“RPS ジャンプスタート”という方法が提供されています。

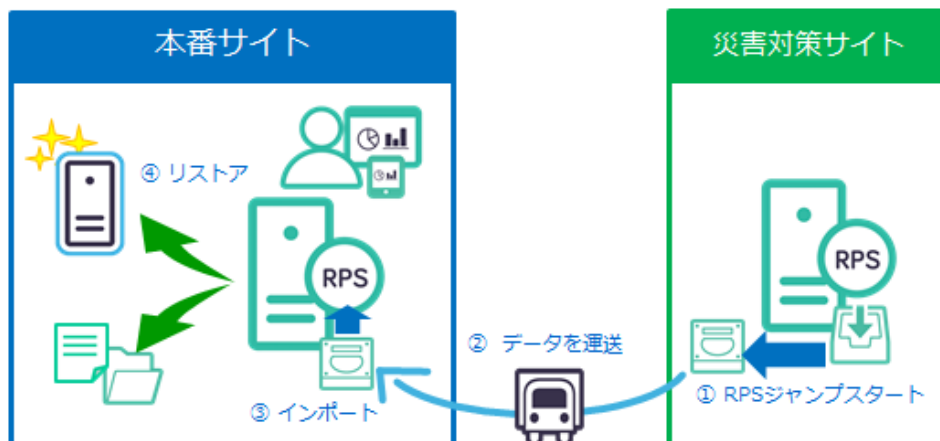
RPS ジャンプスタートの概要や実行手順は、[“3.1 RPS ジャンプスタート機能を利用する手順”](#)を参照ください。

4. 災害対策サイトからの復旧手順

本手順では災害対策サイトに転送された復旧ポイントサーバのバックアップデータを使い、本番サイトを復旧するための以下の2つの方法を紹介します。（各方法の詳細については次ページ以降で紹介いたします）

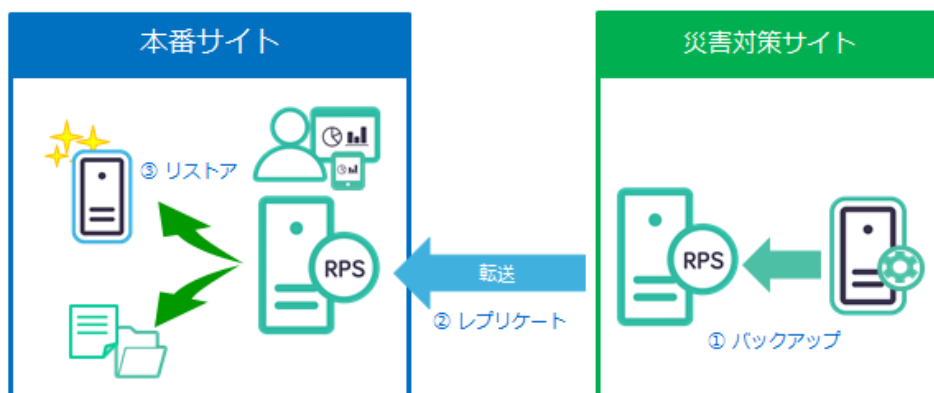
3.1 RPS ジャンプスタート機能を利用する方法

災害対策サイトにあるバックアップデータを USB ディスクなど外部ストレージで本番サイトに搬送



3.2 レプリケートタスクを利用する方法

災害対策サイトで仮運用した業務サーバをバックアップし、本番サイトへ逆向きにデータ転送



災害などで壊れた本番サイトの UDP コンソールと復旧ポイントサーバを再構築する場合は、以下を参照ください。

「Arcserve Unified Data Protection 9.x 環境構築ガイド - コンソール + 復旧ポイント サーバ - (フル コンポーネント) インストール編」

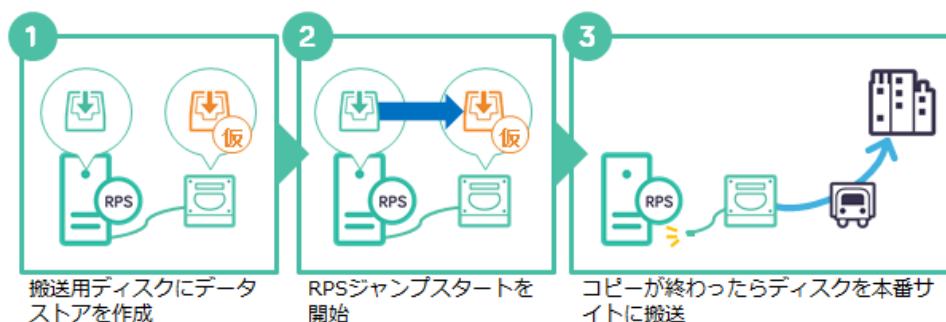
<https://www.arcserve.com/sites/default/files/2023-01/udp-9x-console-install-guide.pdf>

4.1 RPS ジャンプスタート機能を利用する手順

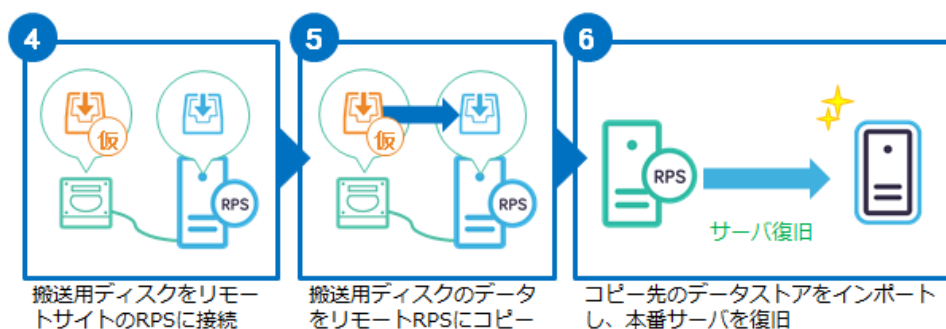
RPS ジャンプスタート機能を使うと、同じ復旧ポイントサーバ内の異なるデータストアに対し、バックアップデータを複製できます。複製されたバックアップデータを他の拠点へ運び、遠隔地の復旧ポイントサーバにインポートすると、2つの復旧ポイントサーバ間で同じバックアップデータを持つことができます。

＞ RPS ジャンプスタートを使ったバックアップデータ複製手順の流れ

～ 災害対策サイト側の作業 ～



～ 本番サイト側の作業 ～



上記①を実施する前に災害対策サイト側の復旧ポイントサーバに対し、バックアップデータの複製先となるストレージ媒体（USB ディスクなど）を接続します。

～ 災害対策サイト側の作業 ～

(1) RPS ジャンプスタート用データストアの追加

本番サイトに、搬送用にストレージ媒体を接続します。一時保管用のデータストアを、接続したストレージ媒体上に作成します。

災害対策サイトの復旧ポイントサーバを選択し、右クリックして表示されるメニューから、[データストアの追加]をクリックしてください。

([アクション]メニューから[データストアの追加]をクリックすることもできます。)



(2) データストアの設定

[データ ストアの追加]画面で、追加するデータストアの名称を[データ ストア名]に入力します。

[バックアップ先フォルダ]は、バックアップデータ搬送用のストレージ媒体内のフォルダを指定します。

なお、デフォルトでは[データのデデュプリケート]のチェックがされており、バックアップデータの重複排除機能が有効になっています。本ガイドではデフォルト設定のまま作成を行います。

※注意：複製元のデータストアが重複排除機能を使用している場合は、複製先のデータストアの重複排除機能を有効にして作成してください。

複製元のデータストアの重複排除機能が無効な場合、複製先のデータストアの重複排除機能が有効または無効のどちらでも利用できます。

一時保管用のデータストアは、[バックアップ先フォルダ] [データ デスティネーション] [インデックス デスティネーション] [ハッシュ デスティネーション]の4箇所のフォルダをすべて搬送用一時保管のディスク上に設定してください。

設定完了後、[保存]ボタンをクリックします。

データストアの作成

データストア名: JumpStartDS

データストアフォルダ: F:\jumpstartDS 参照

同時アクティブノードの制限: 4

☒ デデュプリケーションの有効化

デデュプリケーションブロックサイズ: 16 KB | デデュプリケーション | テープバックアップ | リストア

ハッシュメモリ割り当て: 4096 MB (最大: 8191 MB, 最小: 1024 MB)

☐ ハッシュデスティネーションはSSD (Solid State Drive) 上にある

データデスティネーション: F:\jumpstartDD 参照

インデックスデスティネーション: F:\jumpstartID 参照

ハッシュデスティネーション: F:\jumpstartHD 参照

☒ 圧縮を有効にする

圧縮タイプ: ☒ 標準 ☐ 最大

☐ 暗号化の有効化

☐ デスティネーションの容量が上限に近づく、電子メールアラートを送信する

保存 キャンセル ヘルプ

データストアが追加されると、一覧の復旧ポイントサーバ配下にデータストアが表示されます。データストアが正常に開始されたことを確認してください。

以上で搬送用一時保管のデータストア追加は完了です。

デスティネーション: 復旧ポイントサーバ				
アクション ▾ 復旧ポイントサーバ の追加				
	名前	ステータス	プラン数	
▲	UDP			
	<u>DataStore</u>	✓	1	
▲	UDP2			
	<u>JumpStartDS</u>	✓	0	
	<u>RemoteDS</u>	✓	1	

(3) [RPS ジャンプスタート]の実行

災害対策サイトの復旧ポイント サーバから複製元のデータストアを右クリックし、[RPS ジャンプスタート]をクリックします。

▲	UDP2			
	<u>JumpStartDS</u>	✓	0	0 バイト
	<u>RemoteDS</u>	✓	1	57.68 GB

変更

削除

停止

復旧ポイントの参照

RPS ジャンプスタート

(4) [1. RPS ジャンプスタート ソースの選択]

[RPS ジャンプスタート]画面の [復旧ポイントのマイグレート]から[データ ストアから、同じ復旧ポイントサーバ上の別のデータ ストア]を選択します。

[ソース 復旧ポイント サーバ]と[ソース データ ストア]が、それぞれ複製元の復旧ポイントサーバとデータストアであること確認します。もし異なる場合はそれぞれプルダウンから選択してください。

次に[ノード名]で、復旧対象のノードを選択し、[次へ]をクリックします。

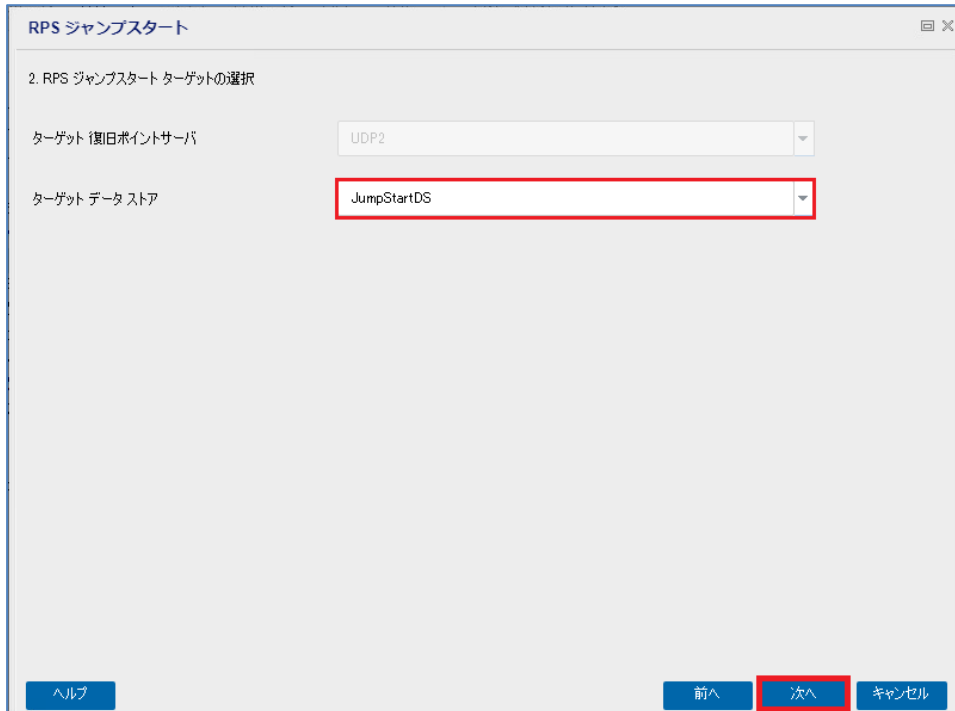
The screenshot shows the 'RPS ジャンプスタート' (RPS Jump Start) window. The title bar says 'RPS ジャンプスタート'. The main content area is titled '1. RPS ジャンプスタート ソースの選択' (1. RPS Jump Start Source Selection). It contains four dropdown menus: '復旧ポイントのマイグレート' (Migration of Recovery Point), 'ソース 復旧ポイントサーバ' (Source Recovery Point Server), 'ソース データ ストア' (Source Data Store), and 'フィルタ' (Filter). The first dropdown is set to 'データ ストアから、同じ 復旧ポイントサーバ 上の別のデータ ストア' (From Data Store, another Data Store on the same Recovery Point Server). The second is 'UDP2', the third is 'RemoteDS', and the fourth is 'すべてのプラン' (All Plans). Below these is a message: 'マイグレート対象ノードを選択して [次へ] をクリックします。' (Select the node to be migrated and click [Next]). A table lists the nodes:

ノード名	最初の復旧ポイント	最新の復旧ポイント	復旧ポイントの数
<input checked="" type="checkbox"/> arcserve	2023/05/26 17:13:57	2023/05/28 22:00:04	4

At the bottom, there are navigation buttons: 'ヘルプ' (Help), '前へ' (Previous), '次へ' (Next), and 'キャンセル' (Cancel). The '次へ' button is highlighted with a red box. The footer shows 'ページ 1 / 1' (Page 1 / 1) and '1 - 1/1 の表示' (Display 1 - 1/1).

(5) [2. RPS ジャンプスタート ターゲットの選択]


[ターゲット データ ストア] で、搬送用一時保管のデータストアを選択します。



(6) ジャンプスタートの内容確認

RPS ジャンプスタートの内容を確認し、問題無ければ [完了] をクリックします。

ジャンプスタートが開始され、データのコピーが実行されます。



リスト表示されたノードに対する復旧ポイントは以下のようにマイグレートされます:

ノード名	最初の復旧ポイント	最新の復旧ポイント	復旧ポイントの数
arcserve	2023/05/26 17:18:57	2023/05/28 22:00:04	4

1 - 1/1 の表示

RPS ジャンプスタート処理を開始するには [完了] をクリックします。必要に応じて、追加の手順がここに表示されます。

RPS ジャンプスタートを実行すると、[最近のイベント]にジョブの実行状況が表示されます。

最近のイベント
ログの表示

ノード名: arcserve

RPS ジャンプスタート (イン): 2023/05/29 15:22:10

54% (31.27 GB/57.37 GB)

詳細

経過時間: 00:02:38

RPS ジャンプスタート タスク の [詳細]ボタンをクリックすると[RPS ジャンプスタート ステータス モニタ]の画面で、より詳細な状況を見ることができます。

RPS ジャンプスタート ステータス モニタ - UDP2

RPS ジャンプスタート (アウト)

進捗状況

フェーズ データの転送中

13% (7.97 GB/57.37 GB)

キャンセル

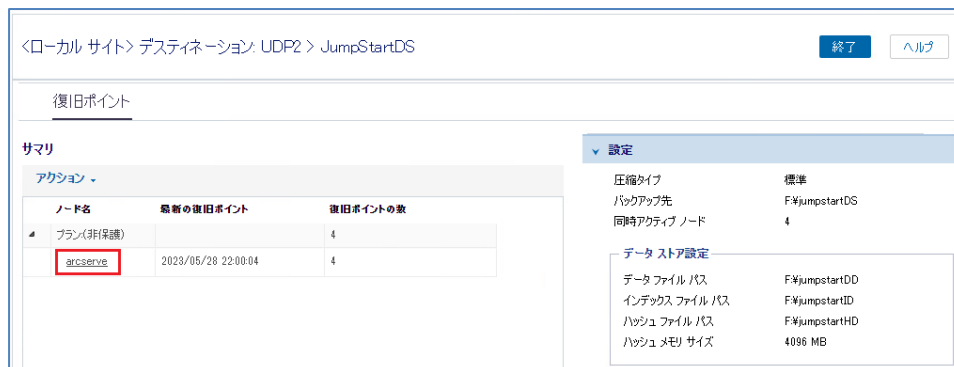
開始時刻	2023/05/29 15:22:09
経過時間	00:01:15
推定残り時間	00:05:59
現在のセッション	1
セッションの開始	1
セッションの終了	4
圧縮レベル	標準
保護	暗号化なし
確保された帯域幅の割合 (%)	35%
ソース復旧ポイント サーバ	udp2
ソース データ ストア名	RemoteDS
ターゲット復旧ポイント サーバ	udp2
ターゲット データ ストア名	JumpStartDS

ネットワーク転送スループット

ネットワーク スロットル	制限なし
物理スループット	765.8 Mbps
論理スループット	1181.1 Mbps

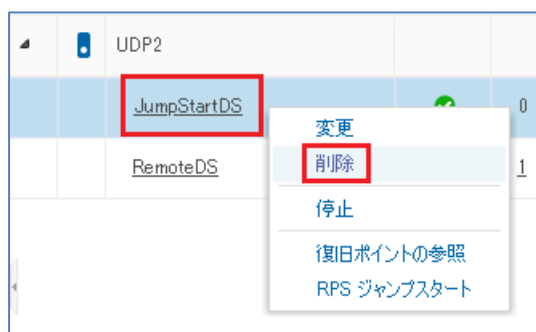
(7) マイグレーションの完了確認

RPS ジャンプ スタート終了後、[リソース]-[復旧ポイントサーバ]-[データストア]で一時保管用のデータストアをクリックし、データストア内に復旧対象サーバが登録されていることを確認します。



(8) データストアの削除

搬送用のストレージ媒体を復旧ポイントサーバから切り離すため、一時保管のデータストアを選択して[削除]をクリックします。左記手順でデータストアを削除してもバックアップデータ自体は削除されません。データストア削除後、ストレージ媒体を復旧ポイントサーバから外して本番サイトに搬送します。



～ 本番サイト側の作業 ～

(9) データストアのコピー

一時保管のデータストアが含まれるストレージ媒体を本番サイトの復旧ポイントサーバに接続し、本番運用バックアップデータの保存先となるフォルダに一時保管のデータストアを、エクスプローラなどを使ってコピーします。

重複排除を有効にしたデータストアの場合は、[バックアップ先フォルダ] [データ デスティネーション] [インデックス デスティネーション] [ハッシュ デスティネーション]の4つのフォルダをコピーします。

4つのフォルダのコピー先は、それぞれ別々のフォルダ/ドライブを指定できます。

(10) [データストアのインポート]の実行

本番サイトの復旧ポイントサーバを右クリックし、[データ ストアのインポート]をクリックします。



(11) [バックアップ先フォルダ]の指定

[バックアップ先フォルダ]に、バックアップ先をコピーしたフォルダを指定します。データストア作成時に[暗号化パスワード]を指定した場合はパスワードを入力し、暗号化パスワードを指定しなかった場合は、空欄のまま[次へ]をクリックします。

データストアのインポート

復旧ポイントサーバ	UDP
データストアフォルダ	F:\jumpstartDS 参照
暗号化パスワード	<input type="text"/>
次へ	

(12) データストアの設定

[データストア名]を指定します。デフォルトでは一時保管のデータストア名が使用されます。
[データデスティネーション] [インデックス デスティネーション] [ハッシュ デスティネーション]はそれぞれコピー先のフォルダを指定し、[保存]をクリックします。

データストアのインポート

データストア名	JumpStartDS
復旧ポイントサーバ	UDP
圧縮タイプ	標準
データのデデュPLICATION	はい
デデュPLICATION ブロック サイズ	16KB
データ デスティネーション	F:\jumpstartDD 参照
インデックス デスティネーション	F:\jumpstartID 参照
ハッシュ デスティネーション	F:\jumpstartHD 参照
ハッシュ デスティネーションは SSD (Solid State Drive) 上にある	<input type="checkbox"/>
ハッシュ メモリの割り当て	4096 MB (最大: 8191 MB、最小: 1024 MB)
データの暗号化	<input checked="" type="checkbox"/>
同時アクティブ ノード	4
共有フォルダ名	%%UDP%\UDP_JUMP0000
<input type="checkbox"/> デスティネーションの容量が上限に近づく、電子メール アラートを送信する	
保存 キャンセル ヘルプ	

(13) データストアの確認

本番サイトの復旧ポイントサーバにデータストアが追加されたことを確認します。

デスティネーション: 復旧ポイントサーバ				
ノード すべてのノード プランのないノード ▸ プラン グループ プラン すべてのプラン デスティネーション 復旧ポイント サーバ Arcserve Backup サーバ 共有フォルダ クラウド アカウント リモート コンソール インフラストラクチャ	アクション ▾ 復旧ポイントサーバ の追加			
	名前		ステータス	プラン数
	UDP			
		<u>DataStore</u>	✓	1
	JumpStartDS		✓	0
	UDP2			
		<u>RemoteDS</u>	✓	1

(14) 業務サーバの復旧

本番サイトの復旧ポイントサーバにあるデータストアを利用して、業務サーバの復旧(BMR)を行います。

BMR の手順については、以下を参照ください。

- Arcserve UDP Agent for Windows

「Arcserve Unified Data Protection 9.x Agent for Windows 環境構築ガイド インストール～ベアメタル復旧編」

<https://www.arcserve.com/sites/default/files/2023-01/udp-9x-win-agent-bmr-guide.pdf>

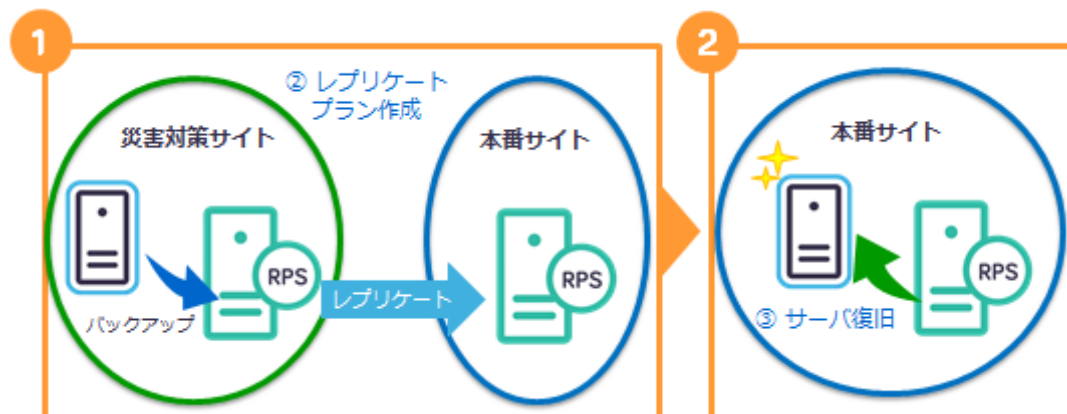
4.2 レプリケートタスクを利用する手順

本番サイトが利用できない間、BMR 等を使用して災害対策サイトに本番サイトを同じサーバを復旧して業務を継続させることができます。

本番サイトの復旧後は、災害対策サイトで運用中のサーバのデータを本番サイトに反映させる必要があります。レプリケートタスクを利用すると、災害対策サイトにある最新のバックアップデータを使って、本番サイトのサーバを復旧できます。

ステップ 1. 災害対策サイトの業務サーバをバックアップし、本番サイトの復旧ポイントサーバにデータストアをレプリケートするプランを作成

ステップ 2. ステップ 1.でレプリケートしたデータストアを使い、本番サイトの業務サーバのシステム復旧(BMR)を実施



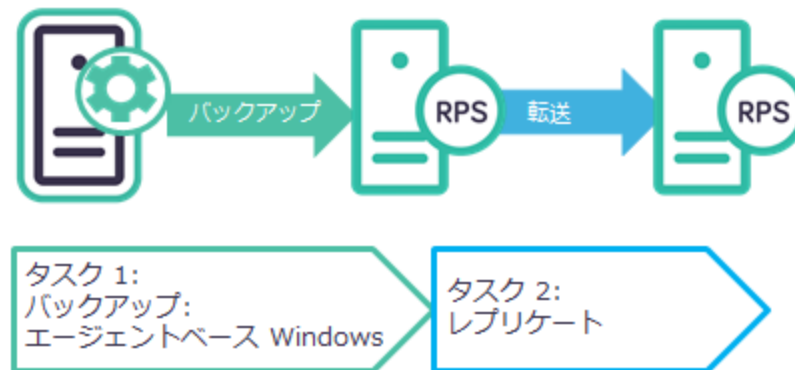
- (1) ステップ 1.では、災害対策サイトから本番サイトにバックアップデータをレプリケートするための以下のタスクを含むプランを作成し、実行します。

タスク 1 : バックアップ: エージェントベース Windows

⇒ 災害対策サイトのサーバのバックアップ

タスク 2 : レプリケート

⇒ 災害対策サイトの RPS から本番サイトへの RPS へのレプリケート



ステップ 2.のプラン作成の手順については、本手順書の以下を参照ください。

「[2.1 バックアップおよびレプリケートのプラン作成](#)」 (Page: 12)

- (2) ステップ 2.では、本番サイトにレプリケートされたバックアップデータを使い、業務サーバを BMR で復旧します。

BMR の手順については、以下を参照ください。

- Arcserve UDP Agent for Windows

「Arcserve Unified Data Protection 9.x Agent for Windows 環境構築ガイド インストール～ベアメタル復旧編」

<https://www.arcserve.com/sites/default/files/2023-01/udp-9x-win-agent-bmr-guide.pdf>

5. 製品情報と無償トレーニング情報

製品のカatalogや FAQ などの製品情報や、動作要件や注意事項などのサポート情報については、ウェブサイトより確認してください。

5.1 製品情報および FAQ はこちら

Arcserve シリーズ ポータルサイト

<http://www.arcserve.com/jp/>

動作要件

<https://support.arcserve.com/s/article/Arcserve-UDP-9-0-Software-Compatibility-Matrix?language=ja>

注意/制限事項

<https://support.arcserve.com/s/article/2023012301?language=ja>

技術情報

<https://support.arcserve.com/s/topic/0TO1R000001MGBFWA4/arcserve-udp?language=ja>

マニュアル選択メニュー

<https://documentation.arcserve.com/Arcserve-UDP/Available/9.0/JPN/Bookshelf.html>

5.2 トレーニング情報

5.2.1 無償トレーニング

半日で機能を速習する Arcserve シリーズの無償ハンズオン(実機)トレーニングを毎月実施しています。どなた様でも参加いただけますので、この機会にご活用ください。

<https://www.arcserve.com/jp/free-hands-on>

5.2.2 Web 版 無償ハンズオントレーニング

実際に構築作業を控えているエンジニアの皆様から「簡単だった！」と好評頂いている無償ハンズオントレーニングの内容をそのままに、ご自席で、いつでも視聴いただけます。ぜひご参加ください。

<https://www.arcserve.com/jp/web-free-hands-on>